



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL http://www.shibuya-p.com



街の喧騒と慌ただしさにただただ毎日が過ぎて行く“師走”。赤信号の横断歩道の先に見えたのは季節の移ろい。

街中の公園。クスの緑。イチョウの黄色。トウカエデの赤。つかの間の装い。枯れ落ち葉。

もうすぐ、クリスマス。家族や大切な人へのプレゼントはもう決まりましたか。あれやこれやとプレゼント考え選び、それを渡したときの笑顔に一年の締めくくりを感じる人も多いことでしょう。

話しは戻って、“もみじ”。「黄葉」は、葉の中に含まれる「カロテノイド」という黄色の色素が、「紅葉」は紫外線でブドウ糖が分解された赤色の「アントシアン」が秋になると日照時間と気温の低下によって、緑葉に含まれる緑色の「クロロフィル」に代わって発現することにより紅葉すること。

地球温暖化が進むと色鮮やかな紅葉は見れなくなるかもしれません。

シブヤの庭・12月

「ピーピー」と朝の静寂を破り、ヒヨドリが啼く。冬の庭の主役は小鳥。メジロ、ジョウビタキ、シジュウカラが水浴びにやってくる。香り高い“スイセン”、“ロウバイ”、“ウメ”の季節は年が明けてから。

11月6日から、ドイツ・ボンで、気候変動枠組条約締約国会議が南太平洋の小国である、フィジーが議長国となって開催されました。各国首脳が顔を合わせて「パリ協定」の運用ルールづくりを加速する合意文書を探択し、閉幕しました。

【ISO14001 掲示板】

- 1) 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする
- 2) できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と吸収量のバランスをとる

2015年にパリで開かれた「国連気候変動枠組条約締約国会議」では地球温暖化対策の長期目標として、上記の事項が合意されました。パリ協定には、主要排出国を含む多くの国が参加。締結国だけで、世界の温室効果ガス排出量の約86%、159か国・地域をカバーし、2016年11月4日に発効し、地球温暖化への歯止めが期待されました。

ところが、今年6月1日、トランプ米大統領は地球温暖化による気候変動が原因と思われる、米国への相次ぐ巨大ハリケーンの上陸、内陸部での大規模森林火災発生状況にもかかわらず、地球温暖化対策による米国の石炭産業と産業競争力への影響を問題視し、パリ協定からの離脱を発表しました。目標を決めても運用ルールが定まらない「気候変動枠組条約締約国会議」の現状に更なる問題を投げかけました。

地球温暖化は長い地球の歴史の中で繰返し起きてきた寒冷化、温暖化のサイクルとの考えも根強くありますが、人為的要素が少なからず影響していることに疑いの余地はありません。世界中の人々がその生産活動もちろんのこと、一般生活の中でも温室効果ガスを抑制するライフサイクルの確立を目指していきましょう。

【地球温暖化でどんな異常気象増える？】

これまでの研究により、極端な現象の中でも、地球温暖化の進行によってリスクが高まる可能性が高く、既にその傾向が認められるものと、まだまだ関係性がはっきりしないものがあることがわかっています。地球温暖化の進行によって、寒い日が減り、暑い日が増えている可能性が高く、今後その傾向がさらに強まることがほぼ確実だと考えられています。一方で、大雨や干ばつ、熱帯低気圧の発生頻度の変化についてはまだよく分かっていません(表1)。これは、降水量などに関しては長期間にわたって一定の品質を保った観測データを集めることが難しいこと、自然のゆらぎの影響が大きく、長期的な変化傾向を検出することが難しいこと、極端な現象の発生頻度が変わるメカニズムの理解が不十分であること、などが原因です。

地球環境研究センターHPより



【近年観測された極端な気象現象の変化の世界規模の評価】

現象及び変化傾向	変化が生じているか	人間活動の寄与	21世紀初頭に予測される変化	21世紀末に予測される変化
ほとんどの陸域で寒い日や寒い夜の頻度の減少や昇温	可能性が非常に高い	可能性が非常に高い	可能性が高い	ほぼ確実
ほとんどの陸域で暑い日や暑い夜の頻度の増加や昇温	可能性が非常に高い	可能性が非常に高い	可能性が高い	ほぼ確実
ほとんどの陸域で継続的な高温/熱波の頻度や継続期間の増加	世界規模で確信度が中程度ヨーロッパ、アジア、オーストラリアの大部分で可能性が高い	可能性が高い	正式に評価されていない	可能性が非常に高い
大雨の頻度、強度、大雨の降水量の増加	減少している陸域より増加している陸域のほうが多い可能性が高い	確信度が中程度	多くの陸域で可能性が高い	中緯度の大陸のほとんどと温帯熱帯域で可能性が非常に高い
干ばつの強度や持続時間の増加	世界規模で確信度が低いいくつかの地域で変化した可能性が高い	確信度が低い	確信度が低い	地域規模から世界規模で可能性が高い(確信度は中程度)
強い熱帯低気圧の活動度の増加	長期(100年規模)変化の確信度が低い	1970年以降北大西洋でほぼ確実確信度が低い	確信度が低い	北西太平洋と北大西洋でどちらかといえば起こる